

沖縄修学旅行で地理学習

山梨県立富士河口湖高等学校 小佐野 淳

はじめに

沖縄を修学旅行先に選定している高校はかなり多い。私の勤務する高校もしかりである。沖縄の修学旅行といえば、決まって平和学習を前面に出してくる。平和学習をするのに異論はないが、生徒の自主性を重んじたり、学校での履修科目の実態に即した学習も必要ではないかと思う。その一例として、沖縄での修学旅行に地理学習を取り入れた取り組みを紹介したい。本校の場合、地理を選択している生徒にのみ、ここで紹介する課題を与えている。とにかく自分の目で地理的事象を実見することが目的なので、見学場所では自分を被写体に入れ、背景に見学した地理的事象を配した写真撮影のみを課している。見学場所の事前事後学習は、生徒全員に旅行記を課している中で調べるようにさせている。あくまでもこうした課題を課す場合、学年全体の目的を優先し、決して教科の課題が生徒にとって加重負担にならないようにしなければならない。実際に生徒に撮影を課している地理的事象は以下のとおりである。

玉泉洞

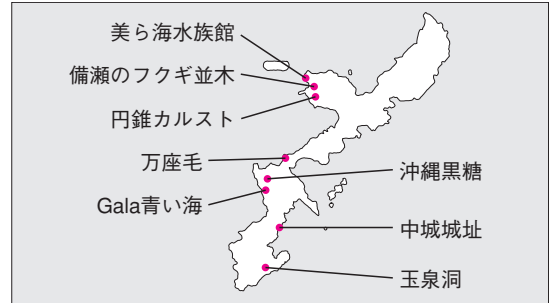
隆起珊瑚礁の島、沖縄の土壌は石灰岩質である。

石灰岩地形のうち、沖縄で最も発達しているのは鍾乳洞であり、その代表が玉泉洞である。玉泉洞では鍾乳石、石筍、石柱、リムストーン



玉泉洞内の鍾乳石

(秋芳洞の「百枚皿」で有名な、畦状の鍾乳石)などを見ることができる。写真には自分の背後にこれらの地形を入れることを課す。意外に知られていないが、玉泉洞のすぐ近くにある珍珍洞もユニークである。



また関連事項として、石灰岩が中城や首里城をはじめとしてさまざまな建築物に使われていることに気づかせる。

1853年、ペリー提督一行が沖縄に立ち寄ったとき、^{なかぐすく}中城を測量し「要塞の資材は石灰岩で、その石造建築は賞賛すべき構造のものである」と『日本遠征記』に書いている。琉球石灰岩を使った城壁は、沖縄では唯一完全に近い形で残された貴重な遺跡となっている。



中城城址の城壁

さとうきび

エタノールガソリンに利用される作物として世界的に注目されているさとうきび畑を実際に見ることができるといい機会であ



さとうきび畑

る。ここではさとうきび畑をバックに、そこで働いている農家の方とのツーショットによる撮影を課す。^{よみたん}読谷村にある「沖縄黒糖」は沖縄県で唯一見学(無料)できる黒糖工場であり、また、黒糖作りやサーターアンダギー作りを体験できる。

海食崖

海食洞を併せもつ万座毛が有名であるが、どこでも見られるので場所は指定しない。



海食崖

珊瑚礁

グラスボートから見て撮影することを課す。美ら海水族館でもオープンエアの状態で飼育しているさまざまな種類の生きた珊瑚を見ることができ、海中での本物はやはり説得力がある。

製 塩

読谷村の海岸に面して「Gala青い海」がある。

地理学習を取り入れるならぜひ訪れたい場所である。

ここには世界の岩塩を一堂に集めた

「塩の彩」、太陽熱と風力で濃縮海水を作るタワーを

「白い風」、濃縮海水を煮詰めて塩を結晶化させる工房

「塩の華」、それに太陽熱を利用した天日結晶ハウス

「白い波」あり、海水から塩ができる過程を観察できる。

ここでは塩作り体験ができるほか、グラスアートや陶芸などの体験学習もできる。



「白い風」



「塩の華」



「白い波」

電照菊

沖縄は菊の栽培が盛んである。前記「Gala青い海」の裏手にも電照菊の栽培ハウスが見られる。スプリンクラーを使っ



電照菊の栽培

ての散水も見所である。余談であるが、夜に高台から電照菊の畑を眺めると、暗闇の中の明かりが絨毯のように広がり、沖縄のもう一つの夜景を楽しむことができる。

備瀬のフクギ並木

美ら海水族館の近くにフクギの大木を防風林に使っている備瀬の集落がある。フクギはフィリピン原産の常緑広葉樹で沖縄が北限地となっている。約500年前の南蛮交易時代に東南アジアから移植され、沖縄の集落を風、潮、火などから守ってきた。沖縄で数少ない原風景を残す地区となっている。



備瀬のフクギ並木

円錐カルスト

本部町を走る県道115号線沿いに点々と並ぶ、妙に形の整った小高い山々が、円錐カルストと呼ばれる石灰岩ベースの地形で



円錐カルスト

ある。日本では沖縄でしか見られない形態で、この規模が大きくなったのが、中国の桂林に発達するタワーカルストである。